

## こんな私になりたい

～ 自分の良さを理解し、将来について前向きに考え、行動することができる力の育成 ～

特別活動 第3学年

内灘町立内灘中学校・教諭

### 1 事例の概要

進路について前向きに考えるために欠かせないのは、「肯定的自己理解」と「自己有用感」であると考え。4月初めに「今の自分が好きですか」と問いかけてみたところ、学級の生徒の7割程度が「好きではない」と答えている。「どうせ自分なんて」と自分自身のよさを認めることができない生徒に、前向きな進路選択ができるだろうか。そこで、まず自分自身の良さに気付かせること、そして「なりたい自分」像を探させ、その姿に近づくためにはどんな努力が必要なのか、今の自分の何を変えていく必要があるのか（ないのか）を見つけさせていきたい。以上のような思いから、このテーマを設定した。

特別活動の「内容」は、学級活動・生徒会活動・学校行事の3つに分かれるが、今回目指しているような力を育成するためには、このうちのどれか1つに絞ることなく、学級経営・学年経営を基盤として、3つの分野で有機的に指導していくことが不可欠であると考え、進めている。

### 2 実践内容

#### (1) 生徒につけたい力

- ① 人間関係形成能力    ② 情報活用能力    ③ 将来設計能力    ④ 意思決定能力

#### (2) 取り組みの内容

- ・学級活動、道徳、総合的な学習の時間、教科における年間計画を立てる。上記のつけたい力は、個々の時間で育てられるものではなく、学級活動、各教科、道徳、総合的な学習の時間等、学校の全教育活動を通して育成されるものであると考える。
- ・以上のうち、メインとなるもの(学級活動)について、各月の学年会で提案していく。
- ・学年での連携を大切に話し合いにより、一つ一つの出来事について、ベストの道を探る。
- ・学級目標の実現に向け、あらゆる活動を結びつけ、点検・修正していく。
- ・日々の活動の充実……点検と振り返り(朝ホーム・帰りホームの充実)
- ・月ごと(週ごと)の目標の設定
- ・学級便りを通じた保護者との連携

B-1 生徒につけたい力

B-2 年間計画

B-3 代議員会の取り組み

### 3 指導の実際

#### (1) 人間関係形成能力をつけるための場面と指導内容

- ・周囲と関わる状況を意図的に設定する
  - 「生活班の活用……班内での役割分担、1ヶ月ごとの座席替え」
  - 「給食中の会話……教師が間に入って(意図的に気になる生徒の近くに座る)」
  - 「授業中に話し合い活動の場をできるだけ多く設定する」
- ・一人一人にスポットライトを当てる工夫を行う
  - 「名言……生活記録ノートからピックアップして帰りホームで紹介・掲示」
  - 「掲示の工夫……一人一人のコーナー(短いコメントを書いて入れる)」

「学級便り………できるだけ個人名を出し、うれしかった事を伝える」

「個々の生徒の特性を生かせる活躍の場がないか、常に考え、促す」

・ピア・カウンセリングの実施

・良いところ探し

「1学期：『仲間』………修学旅行の振り返り」

「2学期：『感動』………体育祭・合唱コンクールの振り返り」

「3学期：『感謝』………ありがとうカードの作成」

・三大大行事(修学旅行・体育祭・合唱コンクール)を通して集団としての力を高める

「それぞれにおいて、ねらい(つけたい力)を明確にして取り組む」

「事前学習・事後の振り返りの充実を図る」

「結果より過程を大切にする」

## (2) 意思決定能力をつけるための場面と指導内容

・自分を見つめる場をできるだけ多く設定する

・「こんな私になりたい」………学期ごとに実施

・ピア・カウンセリング………学期ごとに実施

・定期相談の充実

C-1 学級目標の振り返り

C-2 こんな私になりたい

C-3 学級便り

## 4 成果と課題

### (1) 成果

① あるべき教師の姿勢について学年で共通理解を図れたこと

・信頼関係を何より大切にすること………教師と生徒、生徒と生徒

・教師がまず、手本を見せること………相手を尊重した接し方、プラス思考の考え方

・「結果」より「過程」を大切にする姿勢

上記の3点について特に、学年間で共通理解ができ、生徒一人一人を部分ではなく全体として捉え、生徒の良さを認めることができた。また、その時点でのベストの道を探していくこと、生徒一人一人を学級の中に取り込む工夫の大切さも共通理解できた。

② 生徒の確かな成長

今より悪くなりたいと思っている生徒は一人もいないのであって、生徒を信じ、できるだけ生徒に任せることで、生徒は多様な活動の場で大きな力を発揮することができた。また、注意されてから直したり、動いたりするのではなく、自分で判断して動ける生徒の割合が少しずつだが確実に増えてきてる。また、お互いに自然に声かけをする場面も見られるようになった。

### (2) 課題

・学級内での目立つトラブルはなかったものの、お互いをまだ信用しきれず、自分の良さを十分に発揮できないまま1学期を終えてしまった生徒もいる。体育祭の取り組みや合唱コンクールを通して、より円滑な人間関係を結び、互いの理解が深まるよう、様々な場面を意図的に設定し、できるだけ生徒たち自身の力で乗り越えさせていきたい。

・今後も更に、一人一人の生徒が、小さくてもスポットライトを当てられる場面を工夫し、自己肯定感を感じられる場を多く作り出してしていけるよう努力しなければならない。

・卒業、進路決定の時期になったが、まだ自分の目標をしっかりと定めることができない生徒もいる。個々への働きかけと共に、あらゆる時間での「生き方」学習に今後も力を入れ、自分の将来についてより一層真剣に考える雰囲気をつくっていききたい。学級の生徒全員が自分自身で進路を選択し、その実現に向け前向きに取り組んでいけるよう、最大限の支援をしていきたい。